

愛光会だより

第111号

桜島学園 和光学園 桜町学園 フレンドリーホームいいぐま
総合サポートセンター ラン おひさまキッズ 福祉総合相談支援センター あい
小規模多機能ホーム あいわ

令和4年8月1日発行

発行・編集 社会福祉法人 愛光会
鹿屋市海道町 729 番地 6 TEL 0994-46-2821
FAX 0994-46-2825
<http://www.aikohkai.com/>



桜町学園の利用者の方々が、日中活動の時間にたくさんの生物などを考
えて、「夏の海」を表現され完成した作品です。

新型コロナウイルスとの共生

社会福祉法人愛光会 理事長 指宿 興一

残暑お見舞い申し上げます。

今年の梅雨は、例年と異なり約一週間程度関東地方から遅れて入り、六月二十八日関東地方と共に明けて、短期間で終わりました。

その期間が短かったとの感触を受けなかったのは、梅雨入り、明け前後に雨が多かったことと、集中豪雨が比較的に少なかったことでしょう。さらにオミクロン株を主力とする「新型コロナウイルス」感染状況の高止まりが梅雨の鬱陶しさの後押ししたのではないでしょう。

皆様方は、その後の「猛暑や残暑」と「コロナ禍」に関わらずご健勝のこととお慶び申し上げます。

愛光会傘下事業所の利用者様及び役員は「新型コロナウイルス」感染対策に迫われましたが最小限に抑えています。その状況は、今年一月七日職員一名が初めて感染し、それ以降七月二十五日現在利用者様十八名、職員十八名、累計三十六名が散発的に感染しました。

幸いにして全員軽症にて、すでに回復しています。

愛光会では、令和二年二月に理事長をトップとした「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置して、法人の各事業所との連携の強化を図りつつ「対策基本方針」に沿った「感染予防対策」や「事業所内隔離療養対策」を推進してきました。その間多少の想定外や混乱はありましたが、ある程度「感染の予防、拡大阻止」ができたのではないかと考えています。これは、「三密の回避」や「マスクの着用」等基本対策もさることながら愛光会利用者様、職員の九十五パーセントに達する三回目の「コロナワクチン」の接種が大きな要因ではないでしょうか。さらなる感染拡大の防止を図るためには、「プライバシーの尊重」に配慮した地域における「感染状況」の公開に基づく対策が効果的であると実感しています。地域住民の理解が得られる「地域感染状況公開のあり方」の議論が進むことを

願っています。

これからは「新型コロナウイルス」との共存生活が当面続くと考えられ、それに適応した生活スタイルの構築が急がれます。

第四回目のコロナワクチン接種が七月から始まりましたので、それが新生活のスタート台になることを期待しています。

「新型コロナウイルス」にご理解とご協力をいただいた利用者様、保護者様及び保健所や病院等の関係機関からの適切なご指導に対して、この場を借りて厚く感謝申し上げます。「ありがとうございました。これからもよろしくお願ひ申し上げます。」



社会のあたり前を作る難しさ

桜島学園 児童指導員 川路 尚貴

私は桜島学園に入職し、早いもので五年目となり、子どもたちの生活に悪戦苦闘しながらも、楽しい生活を送っています。その中で私は、大切にしていることがあります。それは、高校時代の恩師に教えていただいた「凡事徹底」の大切さです。凡事徹底していくことは「自分を磨くこと、人として魅力的な人間になること、社会で通用する人間を作ること」です。それを聞いた十五歳の私は、何となく意味が分かっていったつもりで、正直深く考えていませんでした。それから大学で保育を学び、卒業後桜島学園で働き始めてから、凡事徹底の意味を考えさせられるような出来事がありました。それは私が入職して間もない頃、子どもなら知っていてあたり前だと私自身が思っていること、目の前にいる子どもが知っていてあたり前だと思ふことに、大きな違いがあることでした。「あたり前」の物差しが、こんなに違うえば「凡事徹底」などできるはずがありません。それなのに私は、子どもたちに凡事徹底をしようと話をしたり、ときに

はできない子どもに注意をしたりしていました。注意を受けた子どもは苦痛だったと思います。私は恥ずかしくなり、反省するしかありませんでした。私は現在、あたり前のことを子どもに知らせるにはどのようにしていったらいいのか、試行錯誤しながら支援を行っています。そのため、子どもたちの生活を大切に、子どもが安心して、日々の生活の営みとおし、子どもを育むことが大切なのではないかと考えています。

あたり前のことを続けていくのは、とても難しいことです。しかし、その前の段階の「あたり前を作る」というのは、もっと難しいのだと気づかされました。このような大変な作業とおして人は大きく成長します。子どもたちが立派な大人になるための準備として「あたり前を作る」手助けが少しでもできるように、子どもたちと一緒に生活をしていきたいと思います。



コロナ禍の中で

和光学園 生活支援員 久保 明美

「二〇一九年十二月三十一日、中国の武漢市から原因不明の肺炎による集団感染事例として、世界保健機関へ報告された。」とニュースで耳にしたときは正直気にも止めていませんでした。「二〇二〇年一月三日、中国武漢市で滞在中に発熱を認め一月六日、日本に帰国。一月十六日にはコロナ症例の発生が通告された。」と流されました。「え、こんなに早く。」と驚き、陽性者が増えるにつれ、不安も日々募るばかりでした。

法人内ではすぐに対策本部が立ち上がり、各事業所で様々な意見を検討し、食事支援について、施設外活動の中止、施設内行事を縮小して実施、病院受診を可能な場合、代理受診する等の対策をして、日中・短期利用者及び保護者の方々のご理解、ご協力をいただきながら支援に努めています。しかし感染者の増減が繰り返されている状況では、コロナ禍以前の生活ができていないのが現状です。



コロナ禍から抜け出せずに三年目を迎え、振り返ってみると、児童施設と成人施設合同で実施

コロナ禍で思う事

桜町学園 副主任生活支援員 新地 千愛

コロナ禍となり、私たちの生活は一変しました。職場やプライベートでも様々なことに対して、行動制限やウィルスを持ち込まないように世界中で対策が求められる状況です。福祉の世界も例外ではありません。

以前は、利用者様の活動や季節ごとの様々な行事等に皆で取り組み、盛大に行われていました。それらの行事に楽しく参加されている利用者様の笑顔がとても印象的で、私たち職員も自然と笑顔が溢れ、利用者様と共に、行事等の達成感を味わうことができていたように思います。

又、定期的な外出・外泊・家族との面会等にて、利用者様の気分転換や家族交流を行うことができていました。

コロナウィルス感染症が流行して、早いもので三年目に入りました。生活を送る中で、マスク着用は必須となりましたが、桜町学園の利用者様の中にはマスク着用が困難な方も多く、利用者様にも外出や外泊、施設内での活動等においても様々な自粛をいただいております。大変窮屈な生活をされているかと

日々感じています。又、私たち職員は旅行やお祭り・ライブ等のイベントに参加することで楽しみを見出し、気分転換を図っていました。休日にも気軽に出かけて友達と会うことも多かったです。今では出かけることも友達に会うことも気軽にはできず、休日の殆どを家で過ごすようになり、日常生活自体もマンネリ化しているように感じています。

先んきが未だに不透明でありますが、当法人では六月より、感染症対策に充分留意した上で、緩和に向けて動き出しております。利用者様の面会等も再開し、短い時間ではありますが、ご家族と会えて嬉しそうな利用者様の姿を見ることができて私自身も嬉しくなりました。今後、少しずつではあると思いますが以前のよう外泊や外出等も増え、行事等も開催されるようになってくると思います。コロナ前のように盛大にはいかなくても、少しの活動・行事等で利用者様も喜んでいただけたらと思うので、利用者様と共に楽しんでいきたい

と思います。又、プライベートに関しても少しずつ緩和されて来ているので、コロナウィルスを施設内に持ち込まないよう感染症対策をしっかりと行いたいからです。

最後に、コロナウィルス感染症が完全になくなることは難しいとは思いますが、マスクを着用しない日常生活が戻ってくることを願い、コロナウィルスと向き合いながら利用者様が日々笑顔で過ごせるように支援に努めていきたいと思っております。



私のしぼり

フレンドリーホームいぐま 生活支援員 下吹越 大地

私は平成二十二年四月に入職し、早いもので十三年目を迎えることができました。

日々利用者様が安心安全に生活していただけるように、支援員一同、連携を図りながら支援しています。また、新型コロナウイルスの猛威は収まることなく、身近でも感染者が出てきており、より一層感染症対策を徹底して行う必要があると日々感じています。新型コロナウイルス感染症対策の一環として、利用者様や保護者様には多大なご迷惑をお掛けしていますが、外出、面会の自粛等ご協力いただきまして心より感謝しております。

さて、現在私は就労継続支援B型事業所に配属され、日々の業務に勤めています。就労継続支援B型とは、障がいのある方が一般企業への就職が不安、あるいは困難な場合に、雇用契約を結ばないで軽作業等の就労訓練を行うサービスができることです。障がいや体調に合わせて自分のペースで働くことができます。そのため、一般就労等に必要なくスキルを経験、習得することが期

待できます。

現在フレンドリーホームいぐまでは、和牛の仔牛の生産や野菜の出荷、ダニ駆除の下請け作業をしています。私が行っている業務は主に、家畜人工授精師として母牛に人工授精を行い、分娩、出産に立ち合い、仔牛を大きく立派に育て牛競り市に出荷することを目的としています。農耕車両の扱い方や牛の観察等、専門的な知識の必要性は高く、私自身まだまだ勉強不足ですが、他職員に助けられながら日々奮闘しています。

就労継続支援B型に配属されて三年が経ちましたが、今後も自分のスキルアップに努め、利用者様の作業内容の模索、また安全に作業をしていただくために、職務に取り組みたいと思います。

最後に、利用者様が一般就労へ向け、より良い経験ができるよう精一杯動しんで参りますので、ご指導の程宜しくお願い致します。



七年間の出来事

総合サポートセンターラン 生活支援員 矢野 翔也

総合サポートセンターランに勤め七年になります。入社時『人と直接関わり、人のためになることをしたい。』を胸に励み続け、あつという間の七年でした。

また、七年の間で家庭を持ち息子と娘を授かり慣れない子育てにも振り回される毎日です。

その中で、あることをきっかけに娘から大切なことを改めて気づかされました。娘は、生後八ヶ月の時、発熱から熱性痙攣を起こし、救急車で医療センターへ運ばれました。その間五分に渡り痙攣が続き、危険な状態でした。救急車内で娘は、サイズの合わない呼吸機を当てられ、私は不安を感じたことを今でも思い出します。幸い命は助かりましたが、医師より痙攣重責急性脳症と診断を受け、新たに娘の将来についてどうしていけばよいか、妻と話す日々が続きました。

ち家族は疲れ果て、塞ぎ込みがちになっていました。そんな時多くの方々からアドバイスをいただいたり、親身になって支えていただいたりしたことで、私たち家族は元気づけられました。そのこと心から感謝しています。また娘の頑張りもあり、現在では麻痺はほとんど感じられず、二歳上の長男に喧嘩で負けないくらい、おてんばな娘に育っています。

私は娘のことをおして、人を支えることは、こんなにも人を勇気づけるのだということを教えてもらったような気がします。この気づきを、支援を行う上で大切にしていきたいと思っています。

未だコロナが収まらない状況の中で、私が所属する居宅介護事業でも感染防止のため、支援内容の変更や担当支援者の変更、キャンセルになることもあります。その中で、これまで学んだことや経験を活かし私が生活支援員としてできることを考え、あの日の感謝の気持ちをお忘れず、利用者様の生活に少しでも支えとなり、安心して過ごしていただけるよう、これからも励んでいきたいと思えます。

娘は無事に意識が戻りましたが、左半身には軽度の麻痺が残りが、一ヶ月間南九州病院に入院して作業・理学療法を受け、現在も月五日間の短期入院、毎週火曜日は福田病院でのリハビリを受けています。娘が入院した直後、私た



あの日といつの日か

福祉総合相談支援センターあい 相談支援専門員 有村 裕美

我が家では記念樹ならず記念酒が密かに熟成中です。梅雨時期、店頭に出始める青梅を見てはほっこりします。その理由は、子どもたちが通っていた小学校は自然豊かな環境と地域性に恵まれ、経験できない様な季節活動や伝統行事も多い中、入学して初めて体験する校外活動は、梅の実収穫でした。冒頭の記念酒とは、まさに十八年前、長男が初めて収穫した梅で作った梅酒のことです。

当時、袋一杯の梅を両手で抱え帰宅。汗だくに息もあがったまま梅園迄の道中や初収穫の様子、楽しみにしていた給食弁当は、大嫌いな椎茸に肉が詰めてあってね…次々に話す姿を今でも鮮明に憶えています。それと同時に、収穫したての大量の梅に困ったのも母親の本音です。先ずは子どもたちも喜びそうなカリカリ梅や梅シロップ作りを親子して慣れない手つきで楽しみました。いつの日か一緒に梅酒も呑めたら」と、まだ小一の息子を前に一人ワクワクして作った梅酒こそ、勝手ながら私の中の記念酒となりました。その後も

毎年、色々なレシピに挑戦しつつ成功の年もあれば失敗の年もあり、その中に梅酒もありましたが、残るのはこの一瓶のみ。息子の成人祝いの席でサブライズにと意気揚々密かに計画していたはずが、いざとなると手放すことへの抵抗だったのか、妹弟が収穫して作った梅酒はとくに呑んでしまっている手前だったか…なぜか躊躇してしまい、その後も食器棚の片隅で熟成中です。

今度こそ、何か節目の祝いの席があれば、成長と共に沢山の思い出を作ってくれた息子や、愛情一杯に親子の成長を見守ってくださった方々に感謝の気持ちを込めてふるまえればと思えます。その時は、何年物の梅酒になっっているのか…楽しみな様な寂しい様な。初めて梅を漬けた日から早十八年。月日を感じない不思議と鮮明な記憶。職業柄、これまで高齢者の方々に聴かせてもらった素敵な昔話には色々な想いが詰まっていることを改めて感じます。きつといつの日か、私もこの話を誰かに聴いてもらっていることと思います。

祖母の存在と私の仕事

小規模多機能ホームあいわ 副主任介護従業者 本白水 千奈美

平成二十八年十月より愛光会で働かせていただき六年目を迎えました。先輩方、利用者様に助けて貰いながら、桜町学園で四年半、現在は小規模多機能ホームあいわで二年目となり、高齢者介護に携わらせていただいております。

現在に至るまで、私は他の施設で働かせていただいております。今振り返るとすべして「福祉施設」であり、そこには昔敷地内同居をしていた祖母の存在が大きい事を実感します。仕事で忙しかった両親の代わりに祖母と過ごす時間が長く、子どもの頃は庭に落ちていた椿の花や、山芋のおちかごを糸で繋ぎ首飾りのようにしてくれました。その後は、山芋を塩茹でして食べさせてくれたり、やんちゃな私は近所の家の屋根に登り祖母を心配させたりしたものでした。その祖母も九十歳を超え、私も二十歳を過ぎた頃から、段々と祖母との会話に違和感を感じ始めました。認知症の始まりでした。

分の娘の名前で呼んだり、「ひ孫が産まれるよ」と私が妊娠したお腹を見せても「またそんなことを言っつて」と信じてもらえなかったり、気性こそ荒げることがありませんでしたが、いつも家のコタツに座り、じつとテレビを見ている祖母の変化に「若い」を目の当たりにし、寂しさを覚えたのを記憶しています。そんな中、近くのデイサービスへ通うようになり、祖母の表情にも変化がみられました。送迎車が来る一時間も前から玄関で待っていたり、デイサービスでの様子を話したり、何か祖母自身が役割を感じているような様子でした。

祖母は九十五歳で亡くなりましたが、祖母が子どもの頃から近くに居てくれたことで、私の中では高齢者と関わることに何の抵抗も迷いもなく福祉の世界に飛び込むことができました。祖母に感謝し、高齢者の方々の人生の一瞬の関わりでも大切にしていきたいと思えます。



社会福祉法人 愛光会 令和3年度収支決算報告書

資金収支計算書 第1号第1様式

社会福祉法人 愛光会
法人全体

(自)令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (決算)

単位:円

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
事業活動による収支	収入	014 介護保険事業収入	76,103,000	75,157,629	945,371
		016 児童福祉事業収入	199,284,000	208,913,794	- 9,629,794
		018 就労支援事業収入	9,420,000	9,478,478	- 58,478
		019 障害福祉サービス等事業収入	879,102,000	868,261,144	10,840,856
		035 経常経費寄附金収入	2,540,000	2,519,486	20,514
		036 受取利息配当金収入	46,000	2,966	43,034
		037 その他の収入	7,611,000	7,514,464	96,536
		事業活動収入計 (1)	1,174,106,000	1,171,847,961	2,258,039
	支出	041 人件費支出	926,993,000	916,418,901	10,574,099
		042 事業費支出	185,831,000	176,594,099	9,236,901
		043 事務費支出	70,938,000	55,398,931	15,539,069
		044 就労支援事業支出	9,420,000	9,250,615	169,385
		055 支払利息支出	745,000	743,339	1,661
		056 その他の支出	2,700,000	2,666,106	33,894
事業活動支出計 (2)		1,196,627,000	1,161,071,991	35,555,009	
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)		- 22,521,000	10,775,970	- 33,296,970	
施設整備等による収支	収入	061 施設整備等補助金収入	366,000	365,475	525
		065 設備資金借入金収入	0	0	0
		066 固定資産売却収入	0	0	0
		施設整備等収入計 (4)	366,000	365,475	525
	支出	081 設備資金借入金元金償還支出	5,256,000	5,256,000	0
		082 固定資産取得支出	11,683,000	8,655,961	3,027,039
		083 固定資産除却・廃棄支出	2,387,000	2,387,000	0
		施設整備等支出計 (5)	19,326,000	16,298,961	3,027,039
	施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)		- 18,960,000	- 15,933,486	- 3,026,514
	その他の活動による収支	収入	105 積立資産取崩収入	8,631,000	8,516,750
118 その他の活動による収入			4,970,000	4,590,014	379,986
その他の活動収入計 (7)			13,601,000	13,106,764	494,236
支出		124 積立資産支出	11,000,000	10,648,750	351,250
		138 その他の活動による支出	1,283,000	1,230,324	52,676
		その他の活動支出計 (8)	12,283,000	11,879,074	403,926
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)		1,318,000	1,227,690	90,310	
予備費支出 (10)		5,100,000	0	5,100,000	
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)		- 45,263,000	- 3,929,826	- 41,333,174	
前期末支払資金残高 (12)		671,220,784	671,220,784	0	
当期末支払資金残高 (11) + (12)		625,957,784	667,290,958	- 41,333,174	

詳細はホームページをご覧ください。各施設、事業所ごとに
閲覧できます。

愛光会 鹿屋

検索



事業活動計算書 第2号第1様式

社会福祉法人 愛光会
法人全体

(自)令和3年4月1日 (至)令和4年3月31日 (決算)

単位: 円

Table with 4 main columns: 勘定科目, 当年度決算(A), 前年度決算(B), 増減(A)-(B). It is divided into sections for 'Services Activity Increase/Decrease' and 'Services Activity Outside Increase/Decrease'.



社会福祉法人 愛光会
法人全体

貸借対照表 第3号第1様式

令和4年3月31日現在 (決算)

単位: 円

Table with 4 main columns: 科目名, 当年度末, 前年度末, 増減. It is divided into 'Assets' and 'Liabilities' sections.

令和3年度 社会福祉法人愛光会
各施設等における人権擁護推進及び相談・苦情等の受付状況

【対象期間】 令和3年4月1日~令和4年3月31日

Table with columns for facility names, types, monthly reception status (1-12), total counts, and content-specific reception status (e.g., human rights, purchases, travel, illness, food, utilization, family, social services, other).

寄贈一覧

(R3.12.1~R4.6.30) ※順不同

桜島学園

- 東町漁業協同組合様
- 鹿児島県漁業青年部連合会様
- 株式会社ゆのたに様
- 株式会社郡山保険事務所様
- 鹿児島ライオンズクラブ様
- 鹿児島ライオンズクラブ向江光平様
- 鹿児島県農協青壮年組織協議会様
- 鹿児島県 JA 女性協議会様
- 鹿児島まぐろ同友会様
- Café しらはま様
- 株式会社ユーコーホールディングス
ユーコーラッキー新屋敷店様
- 日本中国料理協会鹿児島支部様
- フードバンクかごしま様
- 足ながおじさん様
- 第一生命労働組合鹿児島支部様
- 東桜島地域校区社会福祉協議会様
- 東桜島地区民生委員児童委員協議会様
- 株式会社プレナスほっともっと様
- 天使の羽根プロジェクト様
- 大和無線電器株式会社様
- 思いやり活動まるごみ薩摩本部実行委員会様
- 日本児童養護施設財団様
- 杉木和子様
- 堂園哲也様
- 松田正人様
- 門司一徹様
- 帖地近行様
- 中馬英機様
- 深見修様
- 岩瀬裕様
- 遠藤雅子様
- 中塩屋正様
- 上原政彦様
- 木ノ下真由美様
- 桐良絹代様

たくさんのご寄贈をいただきました。
心から感謝いたします。



① スポーツ特にゴルフ
② 一日一日を無事に利用者支援を終えられた時



和光学園
生活支援員
草野 豊和

① 今年こそ、鹿児島マラソンに参加する。
② 孫と遊ぶこと



桜島学園
調理員
草ノ瀬 裕子

①好きなこと
②幸せを感じる時は？

① スポーツ観戦
② 子どもと一緒に過ごしている時



桜町学園
生活支援員
日高 知穂

① DVD鑑賞
② 愛犬のチワワと過ごす時



桜町学園
看護師兼生活支援員
末吉 和子

① 音楽を聞くこと
② 家族と過ごしている時(孫達)



和光学園
生活支援員
蔭山 鈴子

① お酒を飲むこと(宅のみ)
② 仕事終わりの一杯



総合サポート
センター ラン
看護師兼生活支援員
大窪 隆一

① おしゃべり
② 冗談を言いながら爆笑している時



フレンドリー
ホームいぐま
看護師兼生活支援員
中村 貴子

① 友達との食事(コロナ禍以降できず)
② 家族とバカ話をしている時



フレンドリー
ホームいぐま
看護師兼生活支援員
伊牟田 由起子

① 食歩歩き
② おいしいお店に出会えた時



福祉総合相談
センター あい
事務員
有馬 たか子

① 筋トレ
② 鏡に映る自分の筋肉を見ている時



総合サポート
センター ラン
事務員
有里 恭輔

① ドライブ
② 美味しいものを食べている時



総合サポート
センター ラン
パート生活支援員
藤崎 唯

編

集

後

記

暑中お見舞い申し上げます。愛光会だより第百十一号をお届け致します。

さてコロナ禍となり、早いもので三回目の夏を迎えました。コロナを収束させる大きな武器と期待されたワクチン接種は、三回目の接種者が六割を超えています。感染者数は高止まりしたままであり、国は六十歳以上の方などに対し、四回目の接種を推奨しています。

七月中旬現在、第七波が始まった可能性を指摘されました。感染爆発の収まる気配はなく、不安は募るばかりです。

そのような中、日本では一ヶ月ほど早く梅雨が明け、ところによっては気温が四十度を超える猛暑となり、熱中症の対策も重要な課題となってきました。

ある小学校の「ほげんだより」には、外出時に「水分をとる」「距離をとる」「マスクをとる」の「3とる」生活を呼びかけています。コロナ対策で有効な「三密」を避け、熱中症に有効な「3とる」生活の両方を実施しながら、自粛した夏が、今年で終わりますよう心から願っています。

編集員一同